

(JTB 総研：岩佐)

- ・まだ直接的に関わっている方とは話をしていない。今年度しっかり話をしていくべきだと考えている。

(委員)

- ・地元住民との話し合いが不十分なまま工事が始まってしまうと、反対運動起きる可能性もある。地元住民との話し合いも並行して進めていただきたい。

(吉井会長)

- ・後手にならないよう前もって進めていきたい。

4. 閉会

(砂川副会長)

- ・今年度は宿泊税の導入に向けて詰めの作業が入ってくる中で、この協議会は貴重な意見をいただける場だと考えている。観光客が増える中で、どのように良い環境を作り、宮古島の経済発展につなげていくか、一緒になって考えていきたい。引き続きのご協力をお願いしたい。

以上

(2) 第2回協議会

議事録

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第2回宮古島市観光推進協議会
日時	令和7年2月26日(水) 9:00~10:30
場所	宮古島保健センター 多目的室
出席者	別紙
資料	・議事次第 ・配席図 ・資料1：前回の振り返り ・資料2-1：牧山公園活用検討作業部会での主な意見 ・資料2-2：伊良部牧山公園活用基本構想（案） ・資料3：受入環境整備検討作業部会

1. 開会

- ・資料の確認。

2. 会長挨拶

（宮古島観光協会：吉井会長）

- ・本日は第2回目の宮古島市観光推進協議会ということで、前回7月に開催された第1回協議会において今年度の取組みについての意見をいただいた後、牧山公園活用検討作業部会、受入環境検討作業部会から意見を取り入れ、検討を進めてきた。牧山公園の作業部会においては、牧山公園活用基本構想の策定にあたり作業部会での議論、専門家のアドバイス、地域住民との意見交換を行い案の取りまとめをしている。受入環境の作業部会では、観光客アンケートの実施を通年化した。それにより多くのデータ収集を実現している。昨年度は聞き取り調査を行ったが、今年度はQRコードを使用し旅アトでも徴収できるようにし、約4倍のデータの取りまとめができている。また今回初めて旅アトのアンケート調査とともに、商品についての調査も実施している。さらに人手不足についても実態調査を行い、大学と連携し観光人材誘致の取組も行っている。これらの取組についてぜひ皆様のご意見を伺いたい。

3. 議事

（1）前回の振り返り

（JTB 総研：岩佐）

- ・資料1にもとづいて説明。

（2）令和6年度の取組みについて

①伊良部牧山公園活用検討作業部会

（JTB 総研：橋本）

- ・資料2-1、2-2にもとづいて説明。

(委員)

- ・今の説明でおよそ理解できた。全体的な整備費用が 11 億円かかるがあるとあるが、海の駅とジップラインで結ぶという案もあったが、ホテルができたためになくなったと解釈して良いのか。また個人的な案だが、地元の人も利用できるように、広場やトイレ、駐車場などをまとめることはできないか。

(事務局)

- ・駐車場の場所については、駐車場から展望台までは大きな木が多く、きちんと調査したわけではないが、自然的に価値があると考えている。歩くことを楽しんでいただき、そのために植栽をしっかりと整備し、島の生態系を理解してもらおう場所ともなると考えている。駐車場は外に置いた方が良いという結論に至った。伐採するとすれば雑木林の方が環境に与える影響も小さい。ジップラインも意見をいただいていたが、今回の公園の基本構想の範囲はイラストに示した通りで、崖の活用が難しいと感じている。広場の位置などは今あるものを活かすことが構想のポイントだと考えている。道路際に動線を確保できればより良いが、今あるものを活用する。お墓があることも聞いているため、そこには地域の方がアクセスしやすいように検討していく。
- ・ジップラインは専門家に意見を聞いたが、ホテルがあるからというよりも、牧山から海の駅までの勾配がきつすぎて物理的に難しいという意見をいただいている。

(委員)

- ・特に夜間、誰でも入って来られるような構造になっているが、物が壊される、もしくはたまり場になるという懸念がある。

(事務局)

- ・現在は一日中開いているが、今後運営管理費をまかなう方法として、駐車料金等を考えている。そのために入り口にパーキングゲートを作り、時間が過ぎたら閉めることを検討している。他の入れる場所のセキュリティについても検討する必要があるが、勝手に入れないようにすることは考えている。

(企画調整課/前原課長)

- ・資料の 2-2、26 ページに運営手法が五つあるが、24 ページの今後のスケジュールを見ると、基本設計、実施設計は市がするものと思われるが、そうすると指定管理者制度以外にはないのではないか。またどれくらいの実現可能性があるのか、FS 調査などをする予定はあるのか。

(事務局)

- ・当初は整備を含めて民間で行うことを考えていたが、サウンディング調査では整備の予算に関しては市が出し、その後の運営は民間が行うという意見が多かった。また、地元が関わって運営していきたいという意見が多かった。その場合最初の資金調達が難しい。今のところ地元の方が地元のために誇りをもってしていただける方法は、指定管理ではないかと考えている。実現可能性の調査については、現在全国でテラスビジネスを成功させている方にアドバイスをいただいているが、その方に実際に運営をする上での入場者数、売り上げの試算をお願いする予定だ。FS 調査よりも専門家のデータを見ながら考えていきたい。

(企画調整課/前原課長)

- ・大きな建設費が掛かり、皆が注目し期待しているため、可能であれば FS 調査をしてい

ただきたい。

(委員)

- ・多目的広場についても時間外はクローズするのか。

(事務局)

- ・そのように考えている。多目的広場へのアクセスは駐車場からの動線をメインに考えている。

(委員)

- ・管理者は多目的広場についても管理するのか。

(事務局)

- ・そのように考えている。全体的に植栽、雰囲気の魅力の鍵を握る。それがしっかりできる方をお願いしたいと考えている。

(委員)

- ・個人的な意見だが、多目的広場は展望台の近くまで持って行っていただきたい。人が集まる場所で、今後拡張ができることを考えると、別々に水道を引いてトイレを作るよりも、最初にまとめて今後拡張できるような形になれば良い。

②受入環境検討作業部会

(JTB 総研：岩佐)

- ・資料 3 にもとづいて説明。

(平良港湾事務所/島袋課長)

- ・3 ページの目標値について確認したい。入域観光客数は空路と海路があるが、海路は若干目標値に届いていない。クルーズ船は 2019 年の寄港回数が多かったが、コロナ禍があり落ち込んだ。回復傾向ではあるが、参考までに最近の受け入れ回数を紹介したい。那覇港は 2019 年の 260 回から 220 回、石垣島は 147 回から 120 回、宮古島平良港は一昨年 19 回、昨年は 52 回だったが、ピークは 146 回だった。徐々に回復しているが度合いが遅い。石垣島とも倍以上の差がある。宮古島は引けを取らず勝っている観光資源を持っているが、クルーズの寄港回数についてはこのような状況になっている。寄港傾向も特定の船社に偏っている。船社側が寄港を控えているのか、何が課題なのか。沖縄は様々なクルーズのパターンを組めるため人気がある。協議会を中心に、船社側の意向を確認し、アプローチする機会を設けてはどうか。基本計画の見直しもあり、今後量から質への転換を図っていくと思われるが、船社側の意向を聞くことも重要ではないかと考えている。受け入れ側の課題なのか、港湾側の課題なのか、連携していければと思っている。積極的に応援させていただきたい。

(事務局)

- ・今出された意見に関しては、必要なことだと思っている。今後課題を見つけながら進めていきたい。

(委員)

- ・資料の消費単価について、3 ページは 2023 年度、5 ページは 2022 年実績となっている。金額的には一緒だ。

(事務局)

- ・5 ページを 2023 年度と訂正させていただきたい。

(委員)

- ・海路の客へのアンケートは考えているのか。

(事務局)

- ・空路に限定してはいない。11 ページにあるポスター、チラシを市内の事業者の協力を得て掲示させていただいている。海外からの客が見てアンケートに答えてくれれば良いが、多言語化の対応ができていない。

(吉井会長)

- ・多言語化については今後前向きに検討したい。

(委員)

- ・ウェブ調査について、364 サンプルとあるが、多ければ多いほど精度が上がるわけではない。不作為に抽出することが重要だ。予算はかかるかもしれないが、対面調査も並行してはどうか。12 月ではなく繁忙期にも行ってはどうか。ウェブ調査は補完的なものではないか。QR コードでは偏りが出るのではないか。沖縄県も今年度から対面調査を復活させている。観光庁もアンケートを送り対面で記入してもらっている。対面調査は継続していただきたい。

(吉井会長)

- ・予算の問題もあるが、対面調査を継続実施していきたい。多言語化も取り入れて多くの方からご意見をいただきたい。

(委員)

- ・駐車場が有料になるため、路上駐車対策も検討していただきたい。

(事務局)

- ・公園敷地の周りの環境も含めて検討していく。

4. 閉会

(観光商工スポーツ部：砂川部長)

- ・宮古島市の課題として挙げた計画の見直しについては、来年度取組んでいきたい。今後ご協力をお願いしたい。

以上

4-2. 作業部会

(1) 牧山公園活用検討作業部会

1) 第1回牧山公園活用検討作業部会

議事録

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第1回 牧山公園活用基本構想検討作業部会
日時	令和6年8月29日(木) 13:30~15:00
場所	宮古島市役所 2階 会議室②
出席者	別紙、配席図参照
資料	議事次第、名簿(配席図) 資料1: 規約(組織)について 資料2: 昨年度までのおさらい 資料3: 令和6年度の取組みについて

1. 開会

(事務局/譜久島主事)

- ・配布資料の確認。
- ・本日は2名の方にもご参加いただいている。石田氏は全国のテラスを活用したビジネスを展開されている。令和4年からアドバイザーとして入っていただき、助言をいただいている。伊良部商工会の伊波氏は観光庁の伊良部島のブランディングプロジェクトチームとして参加いただいている。

2. 議事

1) 規約(組織)について

(事務局/洲崎)

- ・資料にもとづいて説明。

2) 昨年度までのおさらい

(事務局/洲崎)

- ・資料にもとづいて説明。

3) 令和6年度の取組みについて

(JTB 総研/橋本)

- ・資料にもとづいて説明。

4) 質疑応答

(環境保全課/与那覇課長)

- ・情報提供がある。まだ提出はしていないが、下地島の開発の件で、WWF や日本自然保護協会、日本野鳥の会等が連名で知事、市長、環境大臣宛てに要請を準備しているとの

ことだ。ミヤコカナヘビは希少種に指定されている。サシバの保護も含めて、ゾーニングをしっかりとしつつ、緑地帯をしっかりと維持してほしいという要請をする。緑地帯の確保は検討となっているが、開発する場合でも緑地帯に移動するよう検討いただきたい。

(委員)

- ・展望台は年間を通して何万人の方が来ているのか。

(事務局/洲崎)

- ・データとしては持っていないが、70～80 万人の人が伊良部島に来ている。

(JTB 総研/篠崎)

- ・アンケートを取ってパーセンテージを掛けて算出している。

(事務局/洲崎)

- ・そのうち十数パーセントが牧山公園に行っているのではないかと現時点で年間 7～10 万人と推測される。

(専門家/石田)

- ・20 年ほど小浜島にあるヤマハのホテルにのべ 10 数年ほどおり、その後同じヤマハのホテルで北海道のキロロリゾートで3年ほど社長をしていた。その後全国でスキー場やホテルを運営している NC リゾートマネジメントに入った。ロープウェーやリフトを作る索道の会社だ。宮古島に沖縄で唯一のリフトがある。8 か所のリゾートのうち新潟、山梨、静岡の4か所を担当している。そこで牧山の素晴らしい景観を生かしたおしゃれな空間のテラスを作るという提案があった。清里、伊豆、琵琶湖でテラス事業を、夏の事業として力を入れていた。見事に成功した。スキー場は夏の事業をどう活性化するかということが課題だった。それを認められて福井県のレインボーラインという景観が素晴らしい公園について、町長や知事からオファーがあり、5～6 年開発に携わった。当初 15～16 万人だった観光客が 40 万人になった。宮古島は何度か来ているが、改めて 2 年前に牧山に来てみて、県内でもずば抜けた景観を売りにした観光施設ができると確信した。JTB から話があった際に関わらせていただきたいと承諾した。宮古島は観光客が増えているが、残念ながら牧山公園はあれだけの景観で一銭もお金が落ちないためもったいない。景観を重視し観光客が来て良かったと思えるようになるたくさんの可能性がある。よろしくお願いしたい。

(宮古島商工会議所/垣花)

- ・商業施設も良いが、伊良部にはサシバという鳥がいるため、子どもたちが伊良部の生き物を学ぶ場があれば良い。修学旅行の生徒にも良いのではないかと。

(事務局/洲崎)

- ・予定としては2階建てで、上が展望台で1階を資料館にしようと考えている。

(都市計画課/西里課長補佐)

- ・全体を開発するのか。

(事務局)

- ・展望台と伊良部大橋が見える広場、駐車場だ。やはり自然を使いながら皆が遊べる施設を作りたいという思いもある。

(委員)

- ・観光客も地元の人にも有益な方法を考えるべきだ。他の観光施設とは違う特有なものがある施設にしていきたい。地元の特産物や農産物を紹介できる物産展や、工芸品を紹

介してはどうか。家族で参加できるワークショップ、体験事業ができるスペースがあっても良い。地元のブランド力を発信でき地元にとっても有益となる。

- ・展望台までの道について、楽しく歩けるような何かを考えている。
- ・屋根を作ってはどうか。
- ・宮古島には花見ができるところがない。サクラや宮古島の花を楽しむ。
- ・ブーゲンビリア、植物のトンネルはどうか。

(JTB 総研/岩佐)

- ・牧山公園を訪問する方の比率は、伊良部に来ている方の約 30%だ。昨年度の観光協会のアンケートで算出した。20 万人は来ている計算となる。

(事務局/譜久島主事)

- ・令和 2 年度の調査では 10 数%だった。その後 SNS の影響で牧山の景観が広まった。その影響もあり 3 年でかなり伸びている。今の施設でそれだけ来ているのであれば可能性はある。

(委員)

- ・沖縄総合事務局と一緒に 3 年計画で島の方向性を決める事業を進めている。商工会としても一緒にできないかと参加させていただいている。今年度は 2 年目になる。昨年は調査を行い、今年度ロードマップを決めるが、活性化させるために海の駅と牧山が近いことため競合しないよう差別化して連結させる。経営者のヒアリングを行うと、マリン事業が下がってきているとのことだった。競合が増えている。ダイビングとシュノーケルがメインだったが、SAP やユニの浜のサービスが増えている。夏場の予約が思わしくない。1 泊数十万円する海沿いのヴィラにヒアリングすると過去最低の売り上げとのことだった。コロナ禍の方が過去最高の売り上げだった。伊良部島の観光では、マリンアクティビティの客が飲食店を訪れるスキームがあるが、他にもいくつか消費を促すスキームを持っておく必要がある。県全体でもクルーズ船は消費額が少ない。どこをターゲットとするか情報交換させていただきたい。
- ・また展望台の中の拝所に気を付けて開発してほしいという意見があったが、ヒアリングすると、1 ヶ所だけあるとのことだった。ただ拝所の重大さがどれくらいかわからないと言っていた。調査して上手に連携できればと思っている。

(事務局/洲崎)

- ・現時点での素案イメージがある。2 階建てを想定し、1 階がトイレと歴史を学べるコーナーで、2 階が展望カフェ、屋内の全天候型テラスだ。ガラス張りで景色を楽しめる。物産も行う。足湯も検討している。3 階の屋上はオープンテラスだ。天気の良い日は高いところから景色を楽しめる。形状についてもまだ案の段階だ。ブラッシュアップしていきたい。清里や伊豆のテラス等を実際に見て参考にさせていただいている。メインの事業は展望台で、駐車場の拡張も早めに着手する。広場 B は以前ハンモックを設置したことがあるが景色が良い。大きめのソファを多く。遊具もある。カフェではソフトクリームやコーヒーを提供する。SNS で発信したくなるものを販売したい。

(専門家/石田)

- ・宮古島は宮古ブルーに近いソフトクリームを出してはどうか。土日では 1500 本、平日でも 800 本は売れるが、ここも面白いものが作れるのではないかと。地元の家族は園内の広場の奥の方を芝生にしているため木陰を作って楽しめるようにする。

(事務局/洲崎)

- ・ 広場 B にも簡単なカフェを置く。木製の巨大ブランコがあっても良い。ハードは駐車場と展望台で、他は木製で作れないか。中央に大きな樹木もあるため木陰を活用したいと考えている。

(専門家/石田)

- ・ 大掛かりにはできないが、宮古島の植物は都会の人にとって新鮮だ。果樹園があっても良いが、野草など宮古島の植物形態が見られるエリアがいくつかあっても良い。地元の人も勉強になる。ただの森ではもったいない。

(JTB 総研/篠崎)

- ・ 観光収入について補足しておきたい。この 10 年で宮古島の入込客数も観光消費額も伸びている。全国的にみるとどうか。落ちるお金は 3 倍に増えている。例えば石垣島は 1.5 倍、札幌市はほとんど伸びていない。京都も 1.5 倍程度だ。観光消費額は一人当たりではなく、住民一人当たりで換算してみた。宮古島市は 160 万円を超えている。石垣島は 190 万円だが、この 1 年で肩を並べるのではないか。京都は 120 万円、札幌市は 25 万円だ。逆に観光客一人当たりの額は、宮古島市が 9 万 7 千円で、石垣島は 8 万円、札幌市は 3 万 3 千円、京都は 2 万 2 千円だ。この 10 年の観光消費という視点では全国で最も成功しているのが宮古島だ。その上で次にできるだけ地元の事業者がそれに関わっていくべきだ。域内循環率を上げる。市外に出て行かないようにするべきだ。最初から事業設計ができる場合、地元の経済団体と意見交換しつつ進めていくべきだ。思っている以上に成功している。お金が落ちだしている地域だ。

(伊良部商工会/手登根青年部長)

- ・ 2 階建ての建物を作ることと、自然を生かした形で作るので、観光客はどちらを求めているのか。

(専門家/石田)

- ・ 清里などではスキー場のゲレンデを活用した。ここは断崖の絶壁を活用する方法はあまり考えられない。少し離して角度を変えたほうが良い。あまり高い建物は難しいため、既存の建物程度でどうか。平坦なものは難しいのではないか。

(事務局/譜久島主事)

- ・ 地元住民からクーラーを入れてほしいという意見があった。夏も滞在するには涼しい方がよいという意見があった。吹き曝しの展望台で、雨も突然降る。雨風をしのぎつつ景色も見られるものにするべきだという意見があった。そうであればサシバの形にはこだわらないという意見だった。

(委員)

- ・ 牧山展望台には移住後すぐに行ったことがあるが、今日 12 年ぶりに行ってきた。景色はきれいだったが、木が重なってもったいない部分もあった。来間の展望台のように、内地から来る人に必ず紹介する場所になってほしい。同じような施設であれば来間の方に行くだろう。駐車場から展望台までが長い。ここでしか見られない植物や体験が求められている。やはり老朽化していた。

(専門家/石田)

- ・ なぜ沖縄で足湯と思われるかもしれないが、どこにでも移動できる足湯で加熱、ろ過、循環を機械装置で行う。300 万円弱するが、足湯に入りながら絶景を見られる場所は少な

い。一つの差別化のつもりだ。内地の人は温泉へのあこがれが強い。本島ではホテル内に温泉があることが多い。ニーズも高まっている。

(委員)

- ・ 持続可能な経済活動や観光開発が念頭にあると思われるが、地域の特産品を使い企業が関係し、地元にも収益の一部が還元されるような、例えば清掃等の取組があっても良い。高台を防災の観点で非常時の避難地にし、物流の機能を持たせてはどうか。安全性の確認は必要だがその機能を持たせる観点から設計しても良いのではないか。

(事務局/洲崎)

- ・ 岸壁をどうするか、調査が必要だ。高さは申し分ない。

(JTB 総研/篠崎)

- ・ 県有地のため県主導で開発が進んでいるが、環境団体との話し合い、コンセンサスはこのタイミングで行うのか。

(環境保全課/与那覇課長)

- ・ 市は関連する部署に意見をいただく。事前に確認して県に回答している。その際に調整が必要だ。

(JTB 総研/篠崎)

- ・ 基本設計のタイミングで県に上げるのか。

(環境保全課/与那覇課長)

- ・ 環境関係は市が了承すれば県も大丈夫だ。何かあった場合は緑地帯に移動してもらうということで許可を出す。サシバに関しても牧山よりも下地島に多い。下地島に徐々に造林していく計画だ。

(JTB 総研/篠崎)

- ・ 駐車場があまりに狭いため拡張する必要がある。公園の一部を駐車場にする場合、早めに打診するべきか。

(環境保全課/与那覇課長)

- ・ まず県の自然保護課に打診する必要がある。

3. 閉会

以上

2) 第 2 回 牧山公園活用検討作業部会議事録

議事録

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第 2 回 牧山公園活用基本構想検討作業部会
日時	令和 6 年 10 月 15 日 (火) 13:30~15:00
場所	宮古島市役所 3 階 会議室①
出席者	別紙、配席図参照
資料	議事次第、名簿 (配席図) 資料 1 : 伊良部牧山公園活用基本構想 (初案)

1. 開会

(事務局/譜久島主事)

- ・配布資料の確認。

2. 議事

1) 伊良部牧山公園活用基本構想 (初案) について

(JTB 総研/橋本)

- ・資料にもとづいて説明。

2) 伊良部牧山公園活用基本構想 (初案) に関する意見交換

(部会長)

- ・意見、質問があればお願いしたい。

(環境保全課/長濱課長代理)

- ・グリーンスローモビリティの話があったが、26 ページに、海の駅と近く周遊が期待できるとあるが、電気自動車でつなげるのか。

(JTB 総研/篠崎)

- ・両方とも市の施設のため、つなげることで相乗効果が出る。グリス口は通常第一種免許で講習を受ければ従業員が乗せることもできる。体が不自由な方、お年寄りを乗せることが出来る。せっかくなので内部だけではなく外の施設ともつなげたいと考えている。

(環境保全課/長濱課長代理)

- ・賛成だ。牧山だけでは距離が短く楽しめない。内部だけだと歩いた方が良い。海の駅以外でも乗れるのであれば料金を取っても良い。自然を触らずに今ある道路を拡張する計画にするべきだ。壊すとどこに行っても変わらないものになってしまう。牧山の良さを生かしていただきたい。森も見られるようなものができれば良い。防空壕を活用しても良い。一番奥まで行くと平良が見られる。せっかくなので使ってはどうか。

(事務局)

- ・協議をする必要はあるが、使った方が良い。

(環境保全課/長濱課長代理)

- ・中途半端にするのではなく、人が集まるようにするべきだ。展望台は海の駅よりも大きくしていただきたい。敷地範囲が限られるが、店も 2~3 店舗あれば良い。海の駅は 1 店

舗と2階のレストランしかない。様々なものが楽しめ、伊良部の歴史が学べると良い。

(都市計画課/西里課長補佐)

- ・具体的に事業費の財源の予定はあるのか。

(事務局)

- ・今のところ一括交付金でできるものは一括交付金で行う。

(部会長)

- ・民間に整備させるのか。

(事務局)

- ・可能な限りそうしたい。駐車場と遊歩道は市が整備するべきだという意見が多い。

(企画調整課/上原課長代理)

- ・一括交付金は国からの補助金だ。使い方についてある程度の説明が求められる。国は定量的な成果を求めて来るだろう。構想段階のため、まだかもしれないが、目指している数値はあるのか。成功と言える数値はあるのか。あれば伺いたい。

(事務局)

- ・入込客数と消費額、取れば滞在時間か。

(専門家/石田)

- ・新規事業を立ち上げる際に、20万人ほどの来場があった場合、駐車場、カートの入園料を1000円取ると単純計算で2億円になる。あわせて物販や伊良部ブルーのソフトクリームなどカフェの売り上げを合わせて2億4000~5000万円の売り上げが確保できる。これだけあれば収支の計算はつくだろう。それだけの資金を使って整備すれば可能ではないか。すでに計算は始めている。

(委員)

- ・前回の繰り返しとなるが、基本構想は伊良部島の文化、歴史、自然環境を十分に生かしたコンセプトにしていきたい。ターゲット層は地元、観光客両方で、持続可能な観光、共にウィンウィンとなる施設づくりを進めていきたい。特に地元の声を、伊良部の人が必要としているのか、求めているのか、どうしてほしいのかという声をヒアリングなどで繰り返し拾っていき、コンセプトを作っていただきたい。施設の配置やデザインは、この眺望を最大限に生かしたデザインになっているのか、安全性、耐久性を含めた基本構想で建てていただきたい。またカフェの運営は地元の食材を使い、地元の人を雇用していただきたい。環境への配慮として、売り上げを一部地元のコミュニティに還元し、ごみ回収、施設整備、植樹に生かしていただきたい。アクセス、インフラ整備については水が重要な部分を占めている。それに対する費用も加味した整備をお願いしたい。多様性の時代でバリアフリーも必要不可欠だ。防災としての機能も持ち合わせて、避難できる設備にする。ルーフスペースにもヘリポートとしての機能を持ち合わせると面白いのではないか。

(事務局)

- ・地域の意見を聞くことは重要だ。伊良部の母親たちから、子どもを遊ばせるところがないということで公園や遊具の要請がある。地元の人が集まる公園として整備していきたい。

(JTB 総研/橋本)

- ・今後の整備について、17ページの下にあるが、山側の多目的広場に遊具を整備する。家

族向けで子どもが思い切り遊べる場所を考えている。今年度基本構想をブラッシュアップする中で、来月地域の方との意見交換の場を設けたいと考えている。地域の方が公園で遊べる、くつろげるようにという意見も取り入れていきたい。

(委員)

- ・展望台の施設の開業時間はどのように考えているのか。

(事務局)

- ・本日、意見を伺えればと思っていた。入場料を取る場合、夜間も人を置いておくのか、無人にするのか重要になってくる。

(専門家/石田)

- ・市町の行事で星を見るイベントがある。伊良部は星がきれいだ。

(委員)

- ・公園は最小限の照明にする必要がある。
- ・最上階のため限りなく明かりのない状況でできる。
- ・今でも夕日がきれいだ。

(JTB 総研/篠崎)

- ・住民からどのような意見が出て来るかによる。

(委員)

- ・夜に活動する動物もいる。
- ・照明はあまり好ましくない。常時点灯していることが動物にとって良くない。
- ・足元だけ照らしても良い。
- ・夜間は遊具で遊ばせないようにするべきだ。
- ・安全性との両立が難しい。管理体制を強化するのか。申し込みしてもらい誰かが入れる制度にするという方法もある。
- ・人が見ていられる時間帯だけ開けるという方法が現実的か。
- ・無人にすると夜間が危険だ。
- ・第 2 期工事で植物園とあるが、今ある森を切って作るのか。果樹を植えても年間を通して一時期しか食べられない。この規模ですと中途半端になってしまう。今あるそのままの木で植物園にしてはどうか。

(専門家/石田)

- ・食べられる野草も生えているが、地元の方もよくご存じではない。宮古島にある食べられる野草園を作ってはどうか。内地の人は目の前にマンゴーやバナナがなっているのを見たことがない。最低限わかる程度のもので良い。

(事務局/譜久島主事)

- ・通路沿いや広場の近くの一角を考えている。

(委員)

- ・通路沿いの街路樹の代わりに植えるという程度で良いのではないか。

(事務局/譜久島主事)

- ・あまりきれいに整備し過ぎて、中に入られることも困る。入りたいと思わない程度のレベルが安全ではないか。

(水道総務課/下里次長)

- ・木を育てる水はどのように考えているのか。

(事務局)

- ・駐車場から展望台の間に水道管があるが、それを少し太くする必要があるということで検討していた。

(JTB 総研/篠崎)

- ・水問題についてシミュレーションしてみたい。草刈りはどの程度の頻度でしているのか。

(事務局)

- ・シルバー人材にお願いして、月 1 回か年に 6 回行っている。台風の後には入れるようにしている。

(JTB 総研/篠崎)

- ・指定管理で業者がするのか、検討していく必要がある。

(JTB 総研/橋本)

- ・子どもが遊べる場所や、駐車料金、入場料をどう両立していくかを考える必要がある。

(委員)

- ・この施設が充実していれば駐車料金や入場料を払っても来るだろう。何に使われているのかははっきり提示すれば人は来る。

(事務局/譜久島主事)

- ・海中公園は島外の価格と島民の価格の設定があるため島の人にも来ていると聞いた。牧山公園の場合も島民価格を考えるべきだ。

(専門家/石田)

- ・全国的にみても地元の人には割引されるケースが多い。

(委員)

- ・13 ページに企業からの提案があるが、展望台以外で提案を受けたものは進んでいるのか。

(JTB 総研/橋本)

- ・あくまで参考意見をヒアリングしたものだ。ジップラインに関しては事業者がやりたいという意向は持っている。やるかどうかはまだ決定していない。

(事務局)

- ・ジップラインの支柱をどこに作るか。海が見えないと意味がない。
- ・風が強いとできない場合もある。

(委員)

- ・あれば収益性が上がるコンテンツだ。ただメインにしても使えないことが多いとマイナス要素になる。

(JTB 総研/篠崎)

- ・展望台が固まれば、企業に協力をいただいて再度声掛けするタイミングが来るだろう。展望台と駐車場を指定管理にしてジップラインは事業者単独でできるのか。もう少し後で検討する必要がある。

(委員)

- ・地元の方の意見も入れていけるということで良いのか。

(JTB 総研/篠崎)

- ・できるだけ参加していただきたい。

3. 閉会

3) 第 3 回 牧山公園活用検討作業部会 議事録

議事録

業務	令和 6 年度観光マネジメント業務 第 2 回 牧山公園活用基本構想検討作業部会
日時	令和 7 年 2 月 17 日 (水) 11:00~12:00
場所	宮古島市役所 2 階 会議室②
出席者	別紙、配席図参照
資料	議事次第、名簿 (配席図) 資料 1 : 前回の振返り 資料 2 : 牧山公園活用基本構想 (案) について

1. 開会

2. 議事

1) 前回の振返りについて

(JTB 総研/橋本)

- ・ 資料 1 にもとづいて説明。

2) 牧山公園活用基本構想 (案) について

(JTB 総研/橋本)

- ・ 資料 2 にもとづいて説明。

(専門家/石田)

- ・ JTB 総研のアドバイザーをしている。全国の民間施設、すたれた施設を再生してきた。詳しくは HP で見ていただきたい。例えば静岡県の伊豆の国パノラマパークには富士山を眺めるテラスがある。山梨県の清里にはサンメドウズ清里という施設がある。ここはスキー場がメインだったが、夏の事業で大成功して夏の売り上げが多くなった。様々な種類のテラスを作っている。福井県のレインボーラインは山頂に公園を作り、5-6 年で 3-4 倍の集客になった。宮古島に 1 年ほど住んでいたが、牧山公園は規模感が同様だ。レインボーラインは公園内にテラス、施設を作ることにより、来場者が 12 万人から 30 万人に、売り上げ規模が 1 億 5 千万円から 4 億円近くまで伸びている。経常利益で 6 千万円ほどだ。付加価値を付けることで楽しさや感動が増える。宮古島はお金を取る施設が非常に少ない。無料で素晴らしい景色が見られる。これだけ外からたくさんの客が来ているにもかかわらず、お金を落としている場所は土産店とホテルと飲食店だけだ。観光地にお金落ちていない。お金を出しても良いので素晴らしい景観を楽しみたいというニーズは大きい。牧山公園は全く引けを取らない素晴らしい景観だ。初期投資は掛かるが、運営の方法で十分に挽回可能だ。ちょうど良い規模だ。県外客やインバウンドをメインにお金を取り、宮古島の人には安くする。県外客は 800 円から 1,000 円のイメージだ。年間で 18 万人が来ると、単純に 2 億円の売り上げになる。ちょっとした食事でもできるようにして、海の駅は食事と土産に特化し、牧山は違う軽食を出す景観に特化した公園にす

ると面白い。

【質疑応答】

(委員)

- ・ 牧山から八重山は見えるのか。
- ・ 山が見えるのではないか。
- ・ 本当に天気良ければ見ることが出来る。
- ・ 多良間の煙突と於茂登岳が見える。
- ・ 展望台に双眼鏡を付けても良い。
- ・ 整備のイメージが分かりやすかったが、自然との共存といった、今までの牧山のイメージからかけ離れているのではないか。ここにいた虫たちはどこに行くのか。いなくなってしまうのか。冬でも蛍がいる。情緒的なものよりもラグジュアリーな方面に進んでいる。地域に向けた側面が見えないという印象だ。数年前に閑散期対策で「ゆる宮古島」というイベントがあった。その際も牧山でアトラクションを試みたが、その時は自然に寄り添ったものが多かった。キャンドルナイトのようなナイトイベントは集客力があつた。空との相性は良い。宮古島は満天の星空がある。夜のアクティビティを検討してはどうか。狩俣公民館の奥の公園に南十字星が見える望遠鏡がある。それがあつても面白い。

(事務局)

- ・ 生態系への配慮ということでは、基本的に駐車場を除いて新たに木を切ることはない。蛍が見られることは初めて聞いた。何らかの形で生かして、配慮しながら進めていきたい。夜のイベントについては意見をいただいている。基本的に夜は閉鎖するが、何度かは最低限の明かりをつけて夜の雰囲気を楽しむイベントを行っていきたい。
- ・ 多目的広場は遊具を置いて地元の人が遊びやすい環境を作る。今後誰が指定管理するのかで変わってくるが、地元割のようなものを検討している。

(委員)

- ・ 伊良部大橋がつながる前に移住してきた。牧山の件に関しては賛成だ。ただ海中公園の売り上げは調べているのか。

(事務局)

- ・ 最近黒字だ。

(委員)

- ・ 料金を取ることに對して疑問の声もあるだろう。マリンレジャーの仕事をしている中で、観光客の声を聞いている。海中公園は最初否定的な意見が多かった。地元の人あまり行かない。牧山に関しては雨が降れば行きにくくなる。駐車場代を取るのか。

(専門家石田氏)

- ・ 施設使用料、駐車場を含めて 800 円から千円を考えている。例えば市民は 300 円、県民は 500 円と安くする。おっしゃる通りレインボーラインは景勝地であるにもかかわらず地元の利用が 6%だったが、県民の利用が 35%まで増えた。地元の方が友人、知人を連れていきたい施設にすることが必要だ。

(委員)

- ・ 危険な箇所が何カ所もある。特に佐良浜には牧山を良く思っていない人がいる。昔から

の歴史を知っている人はよく思っていない。墓があり、近づけない御嶽、ふもとには井戸がある。霊的なことを信じている人が多い。お祓いをしてもしよいのではないか。地元の人の意見を聞いて進めてはどうか。

(事務局)

- ・墓に関して、お墓参りの人からは料金を取らない。御嶽関係の詳細は把握できていない。地域の人と意見交換する際に聞いており、近くにあることはわかっているため配慮していきたい。
- ・現状の牧山で客から何か聞いたことはあるか。

(委員)

- ・ツアーで勧めている。以前は防空壕などのガイドもしていた。やはりトイレの問題がある。老朽化している。

(事務局)

- ・防空壕は触らない方が良く思っていたが、佐良浜の意見交換会で、逆にきれいに街灯を付けて使ってほしいと言われた。

(委員)

- ・県との協議はどうなっているのか。実施設計が始まれば見えて来るが、それまでに時間が掛かる。公園は関係課との調整に時間が掛かる。着手するまでが大変だ。

(事務局)

- ・県とは昨年 9 月に打ち合わせをして、それから大きくは変わっていない。そもそも建ててはいけない場所ではないため、基本的には県のルール内で整備ができると聞いている。おっしゃるように設計に入ってからでないと県との協議もできない。景観に調和した内容ということに関しては、宮古島市にも景観条例があることを伝え、県は市として景観をクリアしていれば言うことはないと言っていた。
- ・崖が気になる。同じように建てられるかどうか。
- ・建築基準法の方になる。

(委員)

- ・今よりも内部に作らなくてはならないということも有り得る。
- ・浄化槽も作る必要がある。
- ・この展望台もホテルや飲食店、土産店のような収益を重視した部類に入るのではないか。

(専門家/石田)

- ・住民の方が楽しめる多目的広場に遊具施設を作る。展望テラスやゆくい広場も、どこから見ても景色が素晴らしい。少し手を加えて、見方を変える施設が一つできて来ると変わってくる。地元の方も最初は不安があると思うが、素晴らしい景色があるということを知ることの価値、効果は大きい。

(委員)

- ・これは市の財源を増やすための観光資源を使ったプロジェクトなのか、民間の収益も限られた展望台の中だけで、土産店と変わらないのではないかと感じてしまう。客が来て盛り上がることは観光産業が主軸の宮古島にとっては良いことだが、一般市民にとっての良いことは、子どもが遊ぶ場所以上に何か伸びしろはあるのか。

(事務局)

- ・今の展望台は観光施設に入っている。観光施設としての整備がメインとなる。おっしゃ

るように公園としてだけの使い方だけではなく、様々な関り方を持てるようにしたい。例えばキッチンカーやイベントの開催、地域のことを学べる場所にもしたいと考えている。

(専門家/石田)

- ・個人的には地元の方が自信と誇りを持ってお勧めできる、ふるさとの誇りになる場所、財産となる場所にしたい。観光資源としても素晴らしいが、そちらの方が重要ではないかと感じている。

(委員)

- ・清里は避暑地で、今までの在り方にリゾート感があったが、伊良部島はそもそもリゾート感がなかった。個人的には好きだが、牧山らしさは残るのかという疑問がある。

(事務局)

- ・そのままの状態で見えていただくことを主軸に考えている。

(委員)

- ・外側の通路は、道路が非常に狭い。木が茂っていて冒険心をくすぐる。それが開けてしまうのか。

(事務局)

- ・この図はデフォルメしているが、中央は幅、植栽は変えない。横に伸びている道は細く、通ることがためられるが、つまづく場所を修繕する程度で開けるようにはしない。駐車場部分を除いて木はほとんど切らない。

(委員)

- ・運営の手法として他の事例をお話いただいたが、素敵な施設、わくわく感を感じられる施設だと感じた。運営後に他に見えてきた効果、課題はあるか。

(専門家/石田)

- ・レインボーラインを除いて他はスキー場がメインだった。温暖化が進みスキーシーズンが短くなってきた。夏の事業を考えて、景色に付加価値を付けたテラスを売り物にしようとした。レインボーラインは国の名勝の国定公園で規制が厳しかった。それでも景観に特化して改修をした。景色は一緒だが観光客にとって違う見せ方をする施設を知ってもらうことができた。

(委員)

- ・課題もブラッシュアップしてより良い構想にしていきたい。

(事務局)

- ・事務局で検討して協議会に提出していきたい。

3. 閉会

以上

(2) 受入環境検討作業部会

1) 第1回受入環境検討作業部会

議事録

業務	令和6年度観光マネジメント業務 第1回 受入環境検討作業部会
日時	令和6年8月29日(木) 15:30~17:00
場所	宮古島市役所 2階 会議室②
出席者	別紙、配席図参照
資料	議事次第、名簿(配席図) 資料1: 規約(組織)について 資料2: 昨年度までのおさらい 資料3: 受入環境の検討について 資料4: 観光アンケートの今後について 資料5: 観光振興基本計画見直しについての議論素材

1. 開会

(事務局/譜久島主事)

- ・配布資料の確認。

2. 議事

1) 規約(組織)について

(事務局/洲崎係長)

- ・資料にもとづいて説明。

2) 昨年度までのおさらい

(事務局/洲崎係長)

- ・資料にもとづいて説明。

3) 令和6年度の実施について

(JTB 総研/岩佐)

- ・資料にもとづいて説明。

4) 質疑応答

(委員)

- ・インターンシップはどれくらいの期間を考えているのか。要望はあるのか。

(JTB 総研/岩佐)

- ・アンケートでは、かなりの大学が「ある」と回答している。75%が宮古島市に興味を持

っている。宮古島の観光は日本で最先端という認識がある。その反動でオーバーツーリズムという課題も抱えている。観光を学ぶ学生からは興味を持たれている。地元にはインターンで来ている。

(JTB 総研/篠崎)

- ・ だいたい夏休みに来ることが多いため、4 月から話を詰めておく必要がある。インターンは就職の入り口となっている。観光業界は、インターンには来るが就職が少ないという課題がある。同じ都道府県内、首都圏内となってしまう。興味はあるが情報がない。仕組みを作っていく必要がある。

(宮古島観光協会/根間副会長)

- ・ 海外から長期インターンで来ている学生は、非常に勤勉で、周囲と調和を取っている。勉強と仕事の両方で来ているが大変助かっている。宮古島で就職してくれる可能性があることは非常に良いことだ。

(オリックスレンタカー/石原社長)

- ・ 前々回の会議でインターンシップの話が出たが、そこから短期間にここまで取りまとめていただいて感心している。観光協会で音頭を取るのか、協議会で部会を作るのか、一步一步前に進めていっていただけたらと考えている。また DMO に向けても頑張っている。その際大学の知見が役に立つ。ただそれをまとめる人材と予算が必要となる。観光課のお力添えが必要だ。大きな考えだけができても、走るためには燃料が必要だ。インターンシップに関してはよくできた資料だ。

(JTB 総研/篠崎)

- ・ 宮古モデルは数ヶ月考えて来た。一度きりの関係では終わってしまう。フィードバックが必要だ。インターンシップの結果を全体として取りまとめて、学部長や学科長にフィードバックする仕組みがあれば、学科長等が替わっても大学との関係が途絶えることがない。実は取組内容に大きなコストがかからないが、他の地域ではここまでできていない。総合的に大学から見ても魅力的なモデルを考えた。HP を観光協会のページに入れても良い。今日の新聞で、サトウキビ農家の団体が、市長に作業員のための宿泊施設として学校を活用させてほしいということが書かれていた。夏のインターンは 7~9 月だ。観光のピークやインターンのシーズンである夏季と組み合わせることが有効だと考えている。そのモデルができると面白い。ただ滞在費をどうするか。企業と学生で折半するケースが多い。大学の先生は研究費を持っているため、学術研究の場合は市の負担は要らない。人を紹介したり、データを提供したりすれば良い。実は宮古島が那覇よりも平均賃金が多いということも知られていない。流れは変わってくる。

(委員)

- ・ できるだけ早く進めていただきたい。宮古島に行きたいという人を受け入れることは、なかなかできることではない。

(委員)

- ・ 宮古島モデルの構築案について、ふるさと納税の話もあったが、市としては財源にはどれくらい確保するイメージか。ふるさと納税は企業版か個人版か。

(事務局/洲崎係長)

- ・ 通常版だ。まだアンケートまでしか実施していない。今後具体的な意見交換を行いたい。

(委員)

- ・②のゼミ研究の受入に絡んでいる。中京大学の川端ゼミ、日大の宮城ゼミ、大商大の近藤ゼミ、阪南大の重谷ゼミ、西南女学院の住谷ゼミの5大学を案内しており、2月下旬にもゼミ生が来てくれることになっている。5～10名ほどだ。元々は閑散期対策の取組みとして考えていたが、今後このような枠組みがあれば、まとめて受け入れた方が良く考えている。ぜひよろしくをお願いしたい。

(委員)

- ・インターンシップの事前研修などを、オンラインでできる仕組みを組み合わせると良いのではないか。

(JTB 総研/篠崎)

- ・ゼミは3, 4年が多いため、1, 2年で実施して興味を喚起する方法もある。卒論の研究対象にしてもらっても良い。

(委員)

- ・コロナ禍などもあって、学生の就職に対する価値観が変わってきている。インター先と就職先が異なる学生が多い現状があるが、ミスマッチ解消に向けた取組は必要だ。勤務時間は長く休日の問題もある。業界全体として考えるべきことでもある。就職につなげるためには、居住環境、市としての受入体制なども見直す必要があると感じた。

(JTB 総研/篠崎)

- ・大学は就職先としてなじみの企業に入れたがる。就職率で見られる。首都圏の大学は地方の企業とのつながりがなく、地方への就職を考えている学生に対する情報が不足している。少しでも情報があれば検討する。学内のセミナーでも地方企業がない。切り崩す作業を同時進行で進めれば流れが変わる。地方の学生はあまり首都圏への就職を望んでいない。宮古島モデルをきっかけにして、首都圏や関西などに集中した学生を地方に送り出す仕組み作りが必要だ。

(委員)

- ・インターンは基本的に無償か。

(委員)

- ・海外からの学生は有償で、渡航費は学生負担、運営費は企業負担としている。国内からの受入はないが、同様な方法か。

(JTB 総研/篠崎)

- ・無償と有償がある。有償の場合、労働力としてしか見ていないところは大学側からの評判が悪い。どうしても就職したい企業の場合は無償でも来る。

(委員)

- ・滞在費、渡航費が工面でできれば有償でも良いのではないか。

(JTB 総研/篠崎)

- ・学びのプログラムがあれば良い。受入れチームを作り議論して全体のレベルを上げていくべきだ。質の向上がなければ宮古島モデルが機能しなくなる。

(委員)

- ・宮古島モデルは有償と決めれば良い。

(委員)

- ・プロとして受け入れる考えの方が良い。インターンシップは就職の入口となる一步をつくるのが有効だ。

(JTB 総研/岩佐)

- ・二次交通の課題が出て来ていた。レンタカー、ループバスなどアンケートの質問に入れようと思うが、必要か。

(企画調整課/元長課長代理)

- ・ループバスのニーズはぜひ把握したい。アンケートは乗客からしか取れていないため、それ以外で市を訪れる方の声を広く知りたい。ループバスを利用したかで聞くとそこで終わってしまう。選択肢の一つとして入れてもらう方が良い。

(JTB 総研/篠崎)

- ・知らない人もいるため、説明して次回使ってみたいか問う、無駄のないアンケートにしたい。ただ運行が不安定なことを心配している。入れるとしづらくなるのではないかな。毎年行えば認知度が上がってくる。設問には入れるべきだと考えている。複数回答だ。

(企画調整課/元長課長代理)

- ・こういった移動手段があると良いかという設問が良いのではないかな。

(港湾課/長濱課長)

- ・QR 設置場所をどうするか。

(JTB 総研/篠崎)

- ・空港には県庁のブースがあるため、ホテル等に協力してもらえないかと考えている。

(港湾課/長濱課長)

- ・住民を除外する仕組み、住み分ける仕組みはあるのか。

(JTB 総研/篠崎)

- ・最初に観光客向けと表示し、住所でフィルターを掛ける。ただ偽装は防げない。

(港湾課/長濱課長)

- ・住民の観光に対する意見を聞く仕組みはあるのか。

(JTB 総研/篠崎)

- ・3 年に一度住民向けアンケートを取っている。そこで意見が取れている。今回は観光客向けの新しい方法だ。住民アンケートは 300 ほどサンプルが取れている。人口を考えると誤差率はそれほどではない。観光事業者に対する好感度は年々上がっている。ビーチの清掃活動も行われている。住民アンケートもうまく機能しているのではないかな。

(委員)

- ・観光に対する住民の意見を聴く仕組みを充実させても良い。広報誌に QR を載せるなどしてはどうか。集計も楽ではないかな。

(港湾課/長濱課長)

- ・理想通貨などと結び付けても良い。

(事務局/譜久島主事)

- ・理想通貨の電子化も検討されており、かなり実現性が高くなる。

(JTB 総研/岩佐)

- ・資料にもとづいて説明。

(委員)

- ・石垣市は諸島であれば、竹富町の分が 4~5 千人プラスされる。あまり変わらない。もしかすると宮古島の方が多いのではないかな。

(JTB 総研/篠崎)

・ 2 年ほどで逆転するのではないか。

(企画調整課/元長課長代理)

・ 宮古島の観光消費額が最も多いものは何か。

(JTB 総研/篠崎)

・ 資料は手元にないが、宿泊費と考えられる。京都の場合、大阪に泊まっている人もいる。離島では宿泊する必要がある、宮古島の宿泊日数が長いことも効いているのではないか。もう 1 泊伸ばしていただければ、もっと飛躍的に消費額が伸びるのではないか。

(委員)

・ 人口規模や経済基盤が異なる札幌市と比較することに無理があるのではないか。札幌市は観光だけで食べているわけではなくベースがある。県内の他の自治体と比べることはわかるが、札幌は違うのではないか。

(JTB 総研/篠崎)

・ 指摘の通りではあるが、有名な観光地の中でも観光による地域への収入や産業の重要度という点では大きく異なるということを示したかった。

(委員)

・ 求めているものが違うのではないか。消費額が高いということは、飲食にかかるお金が高いという現実がある。他では飲食費が抑えられる。高ければ良いとするのか。あまり高すぎると敬遠されるのではないか。

(JTB 総研/篠崎)

・ 確かに次の段階ではそれも検討する必要がある。

(事務局/譜久島主事)

・ 昨年のアンケートでは、予算では宮古のものを食べたいという割合が多かったが、実際にはそれ以外のものに使われていた。宮古のものを食べる方へ分散させることが、域内循環にもつながるのではないか。どこの指標を伸ばすのか。宿泊費が伸びると敬遠される原因になるのではないか。できれば宮古のものを使ってもら。伸びの割り振りを検討することが必要ではないか。

(JTB 総研/篠崎)

・ 飲食の海鮮は必ず下落する。網走は毎年 7%程落ちる。市内の事業者に情報を流していたが、従業員が少なく対策ができていなかった。そのうち白木屋が昼も開けるようになり、そこへ観光客が集中している。事業者に情報をフィードバックすることで上手く活用できる。

(事務局/譜久島主事)

・ できるだけ地元の事業者にしてもらえると、160 万円が地元にかかる。

(委員)

・ 市の事業税は伸びているのか。

・ 法人住民税のみだ。

・ 我々は県税でしか納めていない。

・ 支店登記していただくと良い。

(委員)

・ どこで聞いたか忘れたが、オーバーツーリズムの指標は人口の 20 倍が危険水域と聞いたことがある。現状の 100 万人が臨界点だと感じている。宮古島市の人口は微増傾向が続

いているが、今後 200 万人を目指すとなると、もっと混雑するのではないかと懸念している。無料でしていたタクシーのあっせんはやめた。指標を変えたほうが良いのではないか。レンタカーは今後も減らないと思われる。推計より 1300 台多いという現状だが、JTB の顧客からは足りないという声が出ているという。足りないという言葉が独り歩きしてレンタカー会社が増えた。二次交通でレンタカーが足りないという課題は今もあるのではないか。市でもレンタカー整備も含めて検討する必要があるのではないか。空港利用者の 8 割がレンタカーを利用するというアンケート結果がある一方、混雑した雰囲気は課題に思われている。協会では 6000 台（300 社）のうち、1500 台（12 社）が加盟している。沖縄県は非組合員が突出して多い。地域交通も含めて国マターだ。市のレベルでは考えにくい部分かもしれない。10 台以上ではないと加盟できない。10 台以下の実情が把握できない。加盟すれば良いということでもない。地域で食べさせてもらっているのか、自分で食べているのかの意識の違いか。

（港湾課/長濱課長）

- ・平良公園について地元からの問い合わせが少ない。地元の皆さんからもたくさん案を出していただきたい。

3. 閉会

以上

2) 第 2 回受入環境検討作業部会

議事録

業務	令和 6 年度観光マネジメント業務 第 2 回受入環境検討作業部会
日時	令和 7 年 2 月 17 日 (水) 9:00~10:30
場所	宮古島市役所 2 階 会議室②
出席者	別紙、配席図参照
資料	議事次第、名簿 (配席図) 資料 1 : 前回の振返り 資料 2-1 : 宮古島市観光客アンケートの通年化について 資料 2-2 : 宮古島旅行後のアンケート調査結果 資料 2-3 : 大学との連携による観光人材誘致支援について 資料 2-4 : 宮古島観光協会働き方改革推進支援助成金事業報告

1. 開会

2. 議事

1) 前回の振返り

(JTB 総研/金沢)

- ・資料 1 にもとづいて説明。

2) 令和 6 年度の実施について

○宮古島市観光客アンケートの通年化について

(JTB 総研/金沢)

- ・資料 2-1 にもとづいて説明。

○宮古島旅行後のアンケート調査結果

(JTB 総研/金沢)

- ・資料 2-2 にもとづいて説明。

【質疑応答】

(委員)

- ・最初から予算として持っていく金額が少ない。1 泊でも増やす工夫をしていくべきではないか。何が必要かを考えるべきだ。石垣島のデータはあるのか。宮古島との差がどれくらいかわかれば比較しやすい。石垣島はアンテナショップが充実している。何に重点を置くべきかがわかるのではないか。

(事務局)

- ・県の統計では伸び率は宮古島の方が 3 倍だ。一人当たりの消費額は石垣島を超えている。この予算には宿泊費が入っていないが、886 億円は宿泊費も入っており、平均で 9 万数

千円だ。この調査では交通費、買い物、飲食費、体験プログラムの費用についてのみ回答をいただいている。その中での消費のギャップを見ている。

(委員)

- ・今後何に重点を置くか、比較材料として細かいアンケートが必要ではないか。どこが弱いのかを比較するべきだ。

(事務局)

- ・金額の違いだけではなくどこで消費が起きているかを出している。昨年の調査では地元の魚介類料理への消費が予算よりも少なくなっていた。他地域でもそうだが、名産料理が期待ほど届いていない傾向がある。それが他の商品に流れている。土産品についても魚介類は同様の結果だ。網走市、下北、奥尻島で同じような調査を提案しているが、全国でも初めての調査となる。
- ・観光庁の調査では現像代とクリーニング代しか出していない。オリジナルのデータだ。比較できるのは網走、寿都町、下北などだ。石垣島は身近なライバルだ。何らかの形で細かい数字が拾えれば良い。ただ消費額については負けていない。この10年で石垣島は1.6倍だが、宮古島は3倍だ。一人当たりの消費額では追い越しつつある。消費についてはトップレベルだ。旅アト消費だけで60億円のロスがある。販売機会ロスが26億円ある。まだ伸ばすことが出来る。特にネットだ。観光客が来た際の接点でネットを差し込むと消費が増えていくのではないかな。

(委員)

- ・近年の宮古島はバブルが来ているが、今後落ちていくことを懸念している。石垣島はリピーターが多いが、宮古島は海しかない。それでリピーターを呼べるのかという不安がある。底力がまだ付いていないのではないかと感じている。数字でしっかりとした比較をすることが必要となるのではないかな。

(事務局)

- ・リピーターはかなりの割合いるが、将来的にどうなるかはわからない。持続するための取組は今後検討していく必要があると考えている。

(部会長)

- ・石垣島との違いは離島が多いということだ。宿泊費は入っていないが、飛行機、船などの移動費が入っている。石垣島にはこの点では勝てないのかもしれない。

(委員)

- ・2-2の資料の主な説問で、再訪問という項目があったが、どれくらいあったのか。

(事務局)

- ・36.7%だ。口コミで友人知人が訪問した割合は46.9%だ。最終結果と大きな違いはないだろう。物産品購入も38.8%だった。

(委員)

- ・先ほどの数字の変更について、県と市の捉え方に違いがあるのか。

(事務局)

- ・算出方法が違う。そもそも令和5年度の消費単価は10月末に公表される。それまでは令和4年度の数値を使って暫定値を出していた。令和4年度が105,830円で、令和5年度は102,932円だった。それに合わせて下がっている。

(委員)

- ・販売機会口スの 26.4 億円について、これは逆に読めば 3%程価格が伸ばせるということではないか。思っていたよりも安くて良かったということがあるのではないか。

(事務局)

- ・その可能性はある。客のイメージに合わせて価格を上げられる可能性はある。一方で休みだった、欲しいものがなかったという可能性もある。
- ・10 ポイント以上離れていたら、そこに穴があると解釈しても良い。両方の解釈が可能だ。
- ・宮古島では駐車場料金はあまり払わない。予定していたが払わなかったということもある。

○大学との連携による観光人材誘致支援について

(JTB 総研/金沢)

- ・資料 2-3 にもとづいて説明。

【質疑応答】

(委員)

- ・アンケートで 7 割が宮古島に魅力を感じているとのことだったが、インターンシップで実際に働いても就職につながっていないということもある。最近自分の会社に若い人が入るようになってきた。売り上げが上がり、所得が増えたためだ。国交省の新 3K というものがある。給与、休暇、希望だ。働くことに特化して書かれているが、遊びを加えていってはどうか。インターンシップでも休暇をどう充実させるか。希望について言えば、地方都市で事業展開して 10 年後も働けるという希望をどうやって見いだすことができるか。言葉として伝えづらいが、それを入れておく必要があるのではないか。

(事務局)

- ・おっしゃる通りだ。インターンシップでは企業の魅力もあるが、それ以上にここで生活する魅力がある。それが伝わらないと就職につながらない。今後の理想形として、1 週間のうち 4 日間は企業で仕事を覚え、残りの 3 日のうち 2 日は、地域課題の研究、観光の実情と課題について考える。残り 1 日は休日之余暇を楽しむことを考えている。この島の魅力が伝わるようなインターンシップが必要だ。
- ・インターンシップは数種類ある。今は就職先を探す短期のインターンシップが多い。早期選抜で内定を出している。今回のインターンシップは職業体験のため 3 年生からではなくても良い。できるだけ長く経験してもらうことが必要となる。賃金格差の問題がある。来年度に検討していることとして、月曜から金曜までホテルで働き、土日に休暇がてらガイドの手伝いをする。これを社会人で言い換えると副業となる。これを当たり前のよう検討できるようになると見方が変わる。1 年間の給料が東京生活と変わらなければ風向きが変わってくる。暮らしは豊かだが賃金が安いということを変えていきたい。兼業、副業は社会的コンセンサスが取れてきている。曜日波動があるところでは十分機能するはずだ。3 年生からでは遅い。普通のリゾートバイトとは違い、地域生活のなかに入っていく。学生に新しい選択肢を考える時間を作ることが出来る。地域課題に触れて自分でも解決できるという実体験をすると今までと違った見方をしてくれるのではないか。非常に良いポイントだ。そこをケアしていかないと変わらない。働き方が重要となってくる。

(委員)

- ・宮古島モデルについて、仕事だけではなく心も充実するような一文も入れていただけるとありがたい。

○宮古島観光協会 働き方改革推進支援助成金事業報告

(JTБ 総研/金沢)

- ・資料 2-4 にもとづいて説明。

【質疑応答】

(委員)

- ・アンケートから宮古島の宿泊について見えてきた。ただ宮古島全体でどうするか。インターンシップで人手不足が解消するわけではない。島の魅力は何か。これからの宮古島の観光はどうあるべきか考えていく必要がある。インターンシップをきっかけにした今後の宮古島について、企業が人を採用する際の条件や福利厚生も含めて検討するべきだ。宮古島の可能性を全体で出し合いながら進めることでリピーターの減少も防げるのではないか。今がそれを作る時期ではないか。インターンシップは一つの方法で、そこから出て来る課題を考える時期ではないか。
- ・課題解決も必要だ。前回の振返りの中で観光計画の目標値を達成するために空港利用の課題を解決するということがあった。まず一般駐車場を 30 分無料にしたが、一般車両も停車している空港はあまりない。レンタカーが増えてきている。本島のような中の島を作る。まずはできることをしていくべきではないか。

(部会長)

- ・協議会でも検討していきたい。

(委員)

- ・持続可能がポイントだ。人材については、外から呼び込むこともあるが、外に出た宮古島の人を呼ぶこともある。ただ住む家を考えないと、そこで止まってしまっている。大学との連携も重要だが、根本的にはそれが重要ではないか。様々な行政の部署が連携して考えていくべきだ。全体を網羅して人が来られる環境をどう作っていくか。

(事務局)

- ・社員が転勤になり次の社員が来るまでの間に、住宅を手放すと再度手に入らなくなるため家賃だけを払っているところがある。オフィスとして利用されているところもある。それを解決することも一つの方法だ。借家の流動性を高めるためには総量を増やすことがあるが、オフィス利用も含めて検討する必要があると調査の中で感じた。

(部会長)

- ・市としても区長と意見交換を行い、委員の選定ももう少し考慮するべきだった。

(委員)

- ・人手不足に関して、インターンシップは事業者にとっても良いことなので進めていきたい。受入環境部会はタクシーやバスの関係者が多いため、その方向に行ってしまう。親会に提出する前に環境整備を盛り込んで、バランスを取ってはどうか。

(事務局)

- ・来週親会がある。おっしゃるように住宅問題を解決する必要があるため載せたい。先日

の報告会で商工会の統括がおっしゃっていたが、進学で島外に出た子どもが夏休みに帰ってきて、アルバイトをする。卒業時に先生が子どもたちに対して、友達を連れてきてアルバイトすることを提案していただくと、そうする子どもが出て来るのではないか。

(委員)

- ・当社では規模が小さいためインターンシップの受け入れは考えていない。今までマンパワーとして考えてはいけなかった。人手不足の解消にはつながらないが、繁忙期に来てほしいと思われていることが意外だった。親会社では受け入れているがはれ物に触るような寛大な扱いをしないと、この時勢に何をつぶやかれるかわからない。それがないように受け入れは気を付ける必要がある。ただ繁忙期は忙しいため丁寧に仕事を教えられない。SNS の時代にあるため、受け入れたものの社員の扱いや住まいから宮古島の実情が世に広まるリスクもあるため少し怖い。

(事務局)

- ・過去に就職につながったのはお客様扱いしないインターンだった。細心の注意は必要だが、職業体験的な意味合いは軽くせず、実戦を体験させるべきだ。

(委員)

- ・そのためにはマンパワーが必要だ。

(事務局)

- ・その意見も多かった。細かい調整が必要となってくる。

(部会長)

- ・来週親会が行われる。今日の意見も反映させ、広い意味での環境整備を議論できる場を次年度に作っていきたい。引き続きよろしくお願いしたい。

3. 閉会

以上

令和 6 年度
宮古島市観光マネジメント業務報告書

令和 7 年 3 月

発行：宮古島市 観光商工スポーツ部 観光商工課
〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里 1140 番地
TEL 0980-72-3751